

(様式 1)

2020年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名： 財務会計論特論	
担当教員名： 金子輝雄	
授業科目概要： 筆者は昨年8月にサンフランシスコで開催されたアメリカ会計学会に出席した。AIやフィンテックといった技術革新に対して会計がどう関わっていくのか、というのが同大会のテーマであった。時代の流れを敏感に感じ取り先端に行く会計研究に感心したものの、一方で、学会の雰囲気は参加者や討論の内容からしてやや低調であったように思えた。若干のヒアリングを通して、理論研究よりも実用性を重視する風潮および会計研究者が置かれている立場が垣間見えた。 我が国における会計研究の最近動向に関しては、昨年企業会計基準委員会（ASBJ）が制定した「収益認識」および「時価の算定」に関する会計基準が議論を呼んだ。いずれも内容としてはIFRS15をほぼ踏襲したものとなっている。そのような意味でも日本の会計実務はIFRSを中心に徐々に国際化しているといえる。しかし誰のための会計基準の国際化なのかということが問われなければならない。同時に、多国籍企業、多国籍金融資本および国際的機関投資家の動向に注意して、これとIFRSとのかかわりについても注目していきたい。	
履修上の留意事項： 日商簿記2級以上の簿記能力を有していることが望ましい。 討論テーマについて毎回、予習していただきたい。 統計的手法を使った実証研究は行わない。	
教科書・参考書（参考文献）	
書名：新・現代会計入門<最新版> 著者／編者：伊藤邦雄 出版社：日本経済新聞出版社 出版年：	書名：国際財務報告基準書(参考文献) 著者／編者：国際会計基準審議会 出版社：レクシスネクシス・ジャパン 出版年：20019年
評価方法及び判定基準： 授業での質疑応答50% 課題レポート50%	
授業目標及び進め方： 目標：財務報告基準の国際的コンバージェンスの背景、現況および問題点を理解する。 進め方：上記文献を輪読する形で、毎回、テーマごとに討論を行う。 また、受講生の研究テーマに合わせて、講義内容を若干、変更してもよいと考えている。例えば、税務会計領域と関連するテーマ、すなわち、確定決算基準、税効果会計および中小企業会計基準などは国際的な会計問題でもある。	
第1回	テーマ：会計基準の国際的収斂の現状と動向 内容：会計基準の国際的収斂と証券市場の統合 教科書／参考書 第1章
第2回	テーマ：会計基準の国際的収斂の現状と動向 内容：会計基準の国際的収斂と環境制約 教科書／参考書 第2章

(様式 1)

第3回	テーマ：会計基準の国際的収斂とその影響 内 容：金融商品に係る会計基準の収斂とその影響 教科書／参考書 第3章
第4回	テーマ：会計基準の国際的収斂とその影響 内 容：棚卸資産に係る会計基準の収斂とその影響 教科書／参考書 第4章
第5回	テーマ：会計基準の国際的収斂とその影響 内 容：税効果会計に係る会計基準の収斂とその影響 教科書／参考書 第6章
第6回	テーマ：会計基準の国際的収斂とその影響 内 容：ストック・オプションに係る会計基準の収斂とその影響 教科書／参考書 第7章
第7回	テーマ：会計基準を巡る考え方の国際的対立 内 容：概念フレームワークに関する収斂と対立 教科書／参考書 第8章
第8回	テーマ：会計基準を巡る考え方の国際的対立 内 容：企業結合会計に関する収斂と対立 教科書／参考書 第10章
第9回	テーマ：会計基準を巡る考え方の国際的対立 内 容：減損会計に関する収斂と対立 教科書／参考書 第11章
第10回	テーマ：会計基準を巡る考え方の国際的対立 内 容：無形資産に関する収斂と対立 教科書／参考書 第12章
第11回	テーマ：会計を巡る国際的課題 内 容：業績報告を巡る国際的課題 教科書／参考書 第14章
第12回	テーマ：会計を巡る国際的課題 内 容：XBRLと国際的財務報告 教科書／参考書 第17章
第13回	テーマ：会計を巡る国際的課題 内 容：サステナビリティ報告書の国際的動向 教科書／参考書 第20章
第14回	テーマ：IFRSの将来像 内 容：概念フレームワークプロジェクトについて 教科書／参考資料配布
第15回	テーマ：IFRSの将来像 内 容：金融商品プロジェクトについて 教科書／参考資料配布